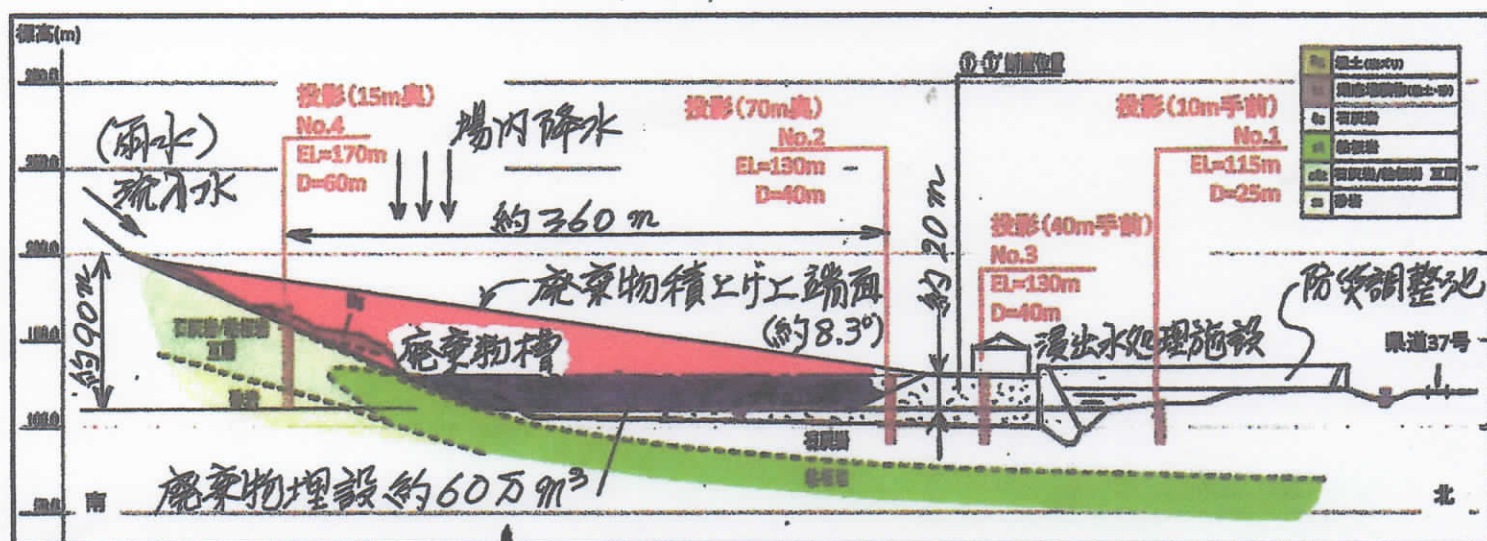
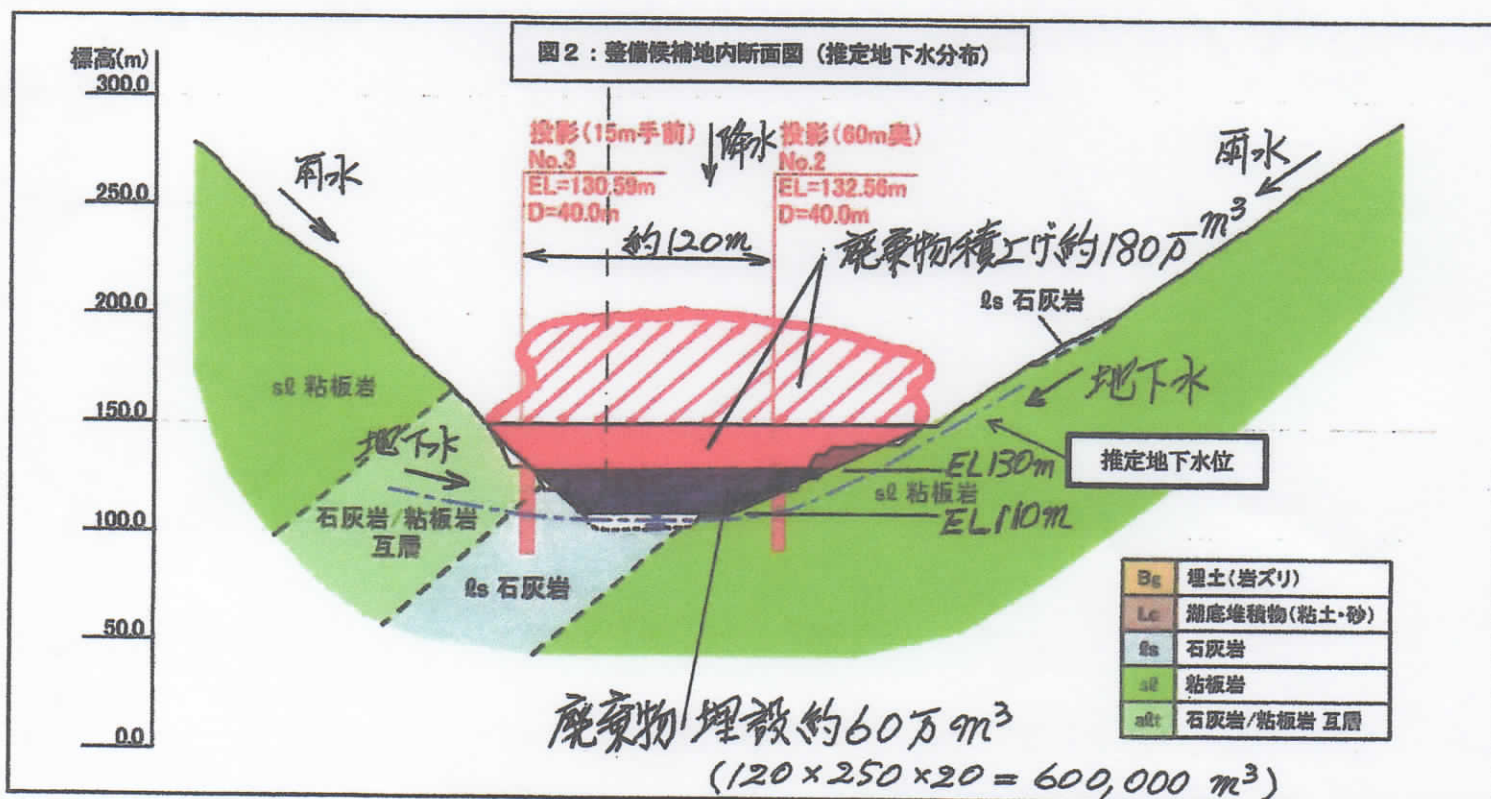




最大の埋立深さ(積上げ高さ?) 約60m
イメージ図を基にスケッチした廃棄物処分場の特徴

(縦方向断面図)



(横方向断面図)

鮎川上流域降水域分布図

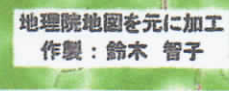


表 3 : 鮎川の流下能力の算定結果と豪雨時想定流量の比較

		地 点					
		鮎川最上流域 ①	唐津沢出口 ②	大平田上流部 ③	北ノ沢出口 ④	大平田合流部 ⑤	梅林付近 ⑥
水路幅	B (m)	10	-	10	7	12	13
水路高	H (m)	4	-	3	3	2.5	2.5
水路断面積	A (㎡)	40	-	30	21	30	32.5
水路勾配	I	0.072	-	0.034	0.043	0.02	0.023
平均流速	v (m/s)	15.2	-	9.3	9.5	6.9	7.5
流下能力 (流量)	Q (㎡/s)	608	-	280	200	209	243
降水域面積	S (㎢)	4.91	1.25	6.42	5.35	11.77	13.80
想定流量	Q' (㎡/s)	144	37	189	157	346	406
流量比	Q'/Q	0.24	-	0.68	0.79	1.66	1.67

* 地点①：鮎川最上流域 地点②：唐津沢出口 地点③：大平田地区上流部
 地点④：北ノ沢出口 地点⑤：大平田合流部直下流 地点⑥：西成沢町 3 丁目の
 橋付近（諏訪梅林付近） 以上の各位置は、図 6：降水域分布図に表記されている。

* 地点⑤：大平田合流部直下流および地点⑥：西成沢町 3 丁目の橋付近（諏訪梅林）では、
 想定流量に対する流下能力流量の比：Q'/Q が 1.0 を大幅に超えており、この間の鮎川流
 域は、豪雨時の想定流量が鮎川の流下能力を超えた洪水災害危険区域であることを示唆
 している。

* 水防法の規定により、1 時間あたりの最大降雨量を 151mm としたので、降水面積 1 ㎢
 あたりの降水量は 41.9 ㎡/s となる。降雨流出率 f は通常の山林に適用される値である 0.7
 と仮定すると、各降水域における流出量は、降水域面積 1 ㎢あたり 29.3 ㎡/s となる。

* 流下能力の流量算定には、流路は矩形断面と仮定し、マンニングの式を適用した。流路の粗
 度係数 n は、自然河川に対する標準値と言われる 0.030 とした。

マンニングの式：

$$v = \frac{1}{n} R^{2/3} I^{1/2}$$

v：平均流速、n：流路の粗度係数、R：径深（流体平均深さ = A/L）、A：流路断面積、
 L：濡辺（=B+2H）、B：水路幅、H：水深、I：水路勾配、Q：流量（=vA）

新産業廃棄物最終処分場の 整備について

＜住民説明会でいただいたご意見等への回答＞

令和 2 年 11 月
茨城県

(4) 異常気象対策について

(皆様からのご意見)

- ・豪雨があった場合、処分場から雨水が溢れることはないか。

✓〈県の回答〉

- ・管理型最終処分場では、雨水については、埋立地に降った雨水（浸出水）と埋立地以外の敷地に降った雨水に分けて処理しております。
- ・浸出水処理施設には、相当程度の大雨でも処分場から溢れるといった事態に至らぬよう、大きな調整槽を設けております。
- ・エコフロンティアかさまの浸出水処理施設は、約1万 m^3 の調整槽を設けて、豪雨時に発生する浸出水量を一時貯留できる設計としているため、開業以降、最大日降雨量である202mm（H23.9.21）の降雨や、最大1時間降雨量である81.5mm/h（H21.8.7）の降雨の時でも、支障がありませんでした。
- ・また、1日200mmの降雨の場合、約2万トンの水量となり、その約4割は浸透する途中で蒸発します。浸出水としては、残りの約6割である約1.2万トンが2～3日かけて出てくるので、調整槽に貯留し、処理量を均等にして処理をしていきます。
- ・また、防災調整池（雨水調整池）は、（時間あたり最大降水量約200mmを想定して）、約1.9万 m^3 の容量で設計されているため、81.5mm/hの降雨の時でも、支障がありませんでした。 ※想定雨量は1/200年確率の降雨です。
- ・新処分場の浸出水処理施設につきましては、基本計画の中で、近年の豪雨による降雨量なども踏まえて検討してまいります。
- ・埋立地以外の敷地等に降った雨水は、廃棄物に触れないことから、大型の雨水調整池を設けて、一時貯留し、水質を確認した上で、河川等に放流することを想定しており、基本計画の中で、近年の豪雨による降雨量なども踏まえて、雨水排水対策を検討してまいります。

(皆様からのご意見)

- ・埋立地に屋根があった方がいいのでは。

〈県の回答〉

- ・想定としては屋根がない開放型（オープン型）を予定しております。